

令和4年度
予算

人・自然・文化がおりなす
活力とやさしさのあるまち
飛驒高山を目指して

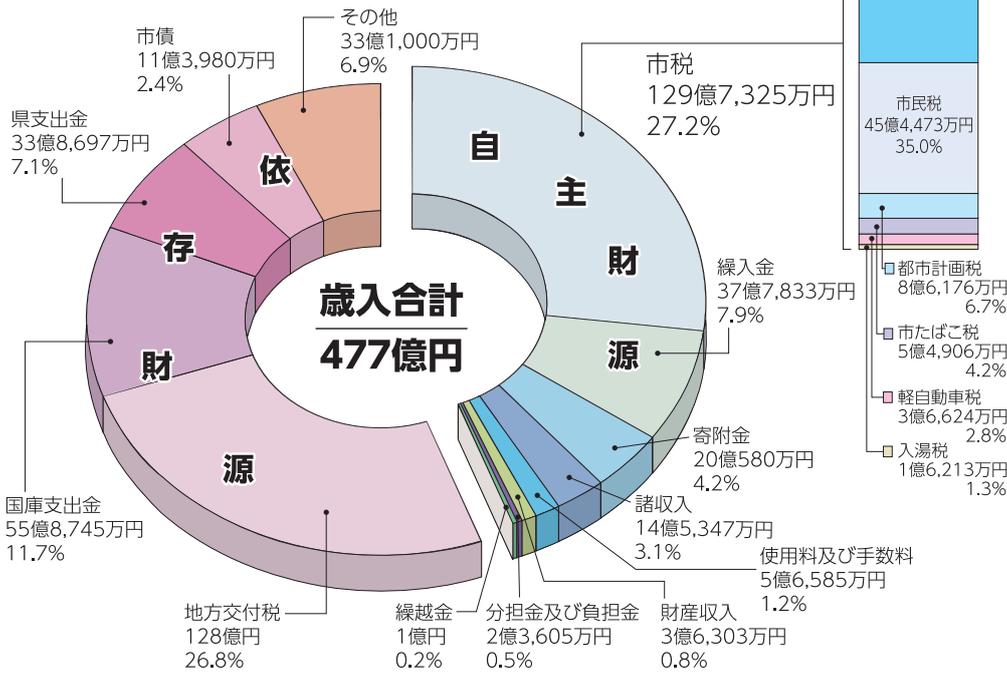


総額781億円のあらまし

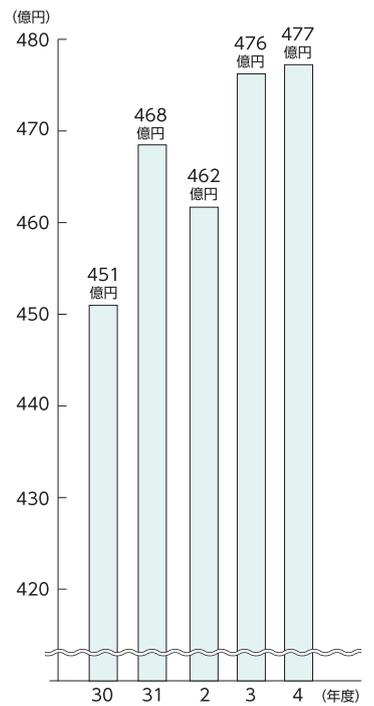
市では、3月1日から開会する市議会定例会に、一般会計477億円、特別会計・企業会計304億円余の令和4年度予算案を提案しました。

問合せ 財政課 ☎35-3132

歳入



● 一般会計当初予算の推移
(※令和4年度は予算案)



新年度予算案のポイント

令和4年度予算は、第八次総合計画に掲げるまちづくりの方向性やまちづくり戦略、持続可能な開発目標SDGs(エス・ディー・ジーズ)の着実な推進を基本としながら、新型コロナウイルス感染症への対応に万全を期すため、「ウィズコロナ社会における適応戦略」と「ポストコロナ社会を前提とした中・長期的な視点による成長戦略」の2つの方向性を踏まえた予算として編成しました。

まちづくりの方向性「多様な働き方と優れた産品、サービスで財を稼ぐ」では、中心市街地活性化の拠点である飛驒高山にぎわい交流館「大政(だいまさ)」の運営や土地改良事業の推進、新たな公共交通手段の導入に向けた実証実験や市民協働による100年先の森林づくりなどを推進します。また、「心身の健康と文化、教育で豊かな暮らしを実現する」では、荘川地域の保育園・小中学校等整備の推進、市民プールの再整備や南高山地域医療センター拠点診療所整備などを推進します。加えて、「人と人がつながり、安全で美しさと便利さが共存する持続可能なまちをつくる」では、新たなジオパーク推進体制の構築を図

